

## 比較検討項目（仮項目によるたたき台）

項目		A案(現在地での一体整備)	B案(まちなか分館整備)
新生美術館の設置目的から見た比較	1 コンセプトの カ点	○全ての作品・機能を同一場所に集中させることで、「美の滋賀」の拠点となるというコンセプトを明確に実現。	○本館・分館の連携により「美の滋賀」の拠点というコンセプトを実現。分館では特に活力ある地域社会への貢献に重点。
	2 プログラム 展開	○機能や人材等を集中させることにより、大規模な事業展開や質の高い展示などが期待でき、滋賀の集客力を高めることができる。 ○特定の分野や手法を超えた展示やイベントなど、多様で柔軟なプログラム展開が可能である。	○本館のオーソドックスな美術館としての機能と、分館の新たな機能の、それぞれの特性や立地環境を生かした取り組みを通じて、幅広い層の県民に向けた事業を展開できる。
	3 施設の文化 性・シンボル性	○施設そのものも美術作品の一つとなるよう、シンボリックでデザイン性の高い新棟を整備する。	○本館隣接地にデザイン性を考慮した新棟を整備する。 ○まちなか分館は、既存施設への入居となるため、施設自体の魅力を訴求することは困難。
	4 利用者の視 点での魅力・ 発信力、アク セス性	(県民の視点、県外利用者の視点)	
	5 次世代育成 ・共生社会の 実現		
	6 地域の賑わい への貢献	(立地周辺地域の賑わい、県域的な賑わい)	
	7 作品の保存 管理	○公開承認施設の承認継続を前提とし、作品の良好な保存・展示を目的として整備された施設で、全ての作品を扱うことにより、県民の財産である作品を確実に次代に伝える。	○まちなか分館は既存施設を改修して入居するため、収蔵環境の安定性・継続性の確保に十分な配慮が必要。 ○両館の間で作品を移動する際には、輸送経費がかかるほか、破損等のリスクがある。
整備・運営面から見た比較	8 館運営	○全ての作品保管や情報が集約されることにより、調査研究や修復なども効率的に実施することができるほか、全ての職員が同一場所で勤務することで、お互いの連携や情報交換が図られやすい。	○館運営において両館の特色を出す一方で、機能の連携や一体性を保つための組織上の工夫や場の設定が必要になる。 ○展示、交流機能は2館において展開されることとなり、A案より専門スタッフを多く配置する必要がある。また、管理の面でも、A案より人員確保が必要である。
	9 施設整備		○分館が入居する施設の状況によって改修工事の規模・内容が異なり、現段階で想定することが困難。施設構造によっては大掛かりな改修工事が必要になり、費用も高額になる恐れがある。
	10 想定費用	(作業中)	
	11 利用者数 目標	(作業中)	